

2024年度 第4回 藤沢市立六会中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2025年 2月 26日（水）10時～
場 所 六会中学校 第一会議室

出席委員	五十嵐 直美（六会地区青少年育成協力会 副会長） 滝内 洋子（学園都市むつあい協力者会議 会長） 堀田 英二（前六会地区自治連合会会長、六会中学校学習支援員） 堀口 陽子（六会地区民生委員児童委員協議会 会長） 山本 裕章（六会地区青少年育成協力会 会長） 人見 甲子郎（フリースクール（杜の仔じゅうがっこう）事務局長） 江添 達男（六会市民センター長） 玉置 日菜子（六会地区担当 CSW） 角田 督（六会中学校 PTA 会長） 大石 由佳（六会中学校 校長） 浅場 純子（六会中学校 教頭）
次第	1. 開会 2. 議題 「学校評価について」 3. 各委員から 4. その他 5. 閉会
協議内容	* 2について ・本校の「2024年度学校評価」について集計結果の報告を行った。今回の保護者回答率は52%となった。昨年度から15%増。昨年度も本会議議題の中で回答率について話題に挙がったが、今年度は、スクリレでのアナウンス、締切日の延長とリマインドメールの送信、三者面談を活用しての再周知等を行った。一定の効果があったものと思われる。（浅場） ・学校は卒業後の進路情報を知らせてくれるという設問は、学年によって期待する情報が異なるのではないか。（堀田委員） ・3年の保護者より、「3年生になって初めて知った進路情報もあった、もっと早く知りたかった」という声もあった。ニーズに合った情報提供を考えていく必要がある。（浅場） ・親も初めてだと不安。上に兄弟がいなくて保護者が地元ではないと、高校のことは何も分からないだろう。（山本委員） ・進路情報の資料を貸し出したり、進路説明会を各学年で行ったら良いのではないか。評価の数値も上がるだろう。学校評価をどのように学校で振り返っているのかを聞きたい。この評価を職員で検討して来年度につなげなければ意味が

ない。良い数値の項目を伸ばすことを考えていけると良い。「学校に行くのが楽しい」と言う項目に対して、「思わない」と回答している子もいるが、楽しくない理由は時期や家庭の事情など様々ある。8割以上が楽しいと思って登校できている。そのような環境を作っている学校を評価し、そこを伸ばすという視点で考えていけるとよいのではないか。(人見委員)

- ・学校評価はデータとして活用できると良い。他校と比較するなど。評価と言われると、マイナス面に目が行ってしまい批判したくなるが、良いところを伸ばすという考えは良い。日本の文化的にも必要な視点。生徒に対しても、自己肯定感を醸成する教育活動をしてもらいたい。(角田委員)
- ・私たちは一部しか見られていないが、生徒が友達同士で楽しそうに歩いている様子をいつも見る。良いところに目を向けて、その輪を広げていけるとよい。(滝内委員)
- ・良いところを褒めると「頑張ろう」と思う。学校評価も良いところを伸ばす。(堀田委員)
- ・毎日行く学校が楽しくないというのは苦痛だと思う。そう回答したのは一桁の子達だが、その子達に対して何ができるか考えられると良い。(堀口委員)
- ・声のかけ方一つで子ども達に伝わる。安心してくれる。(山本委員)
- ・進路情報については、相手に求める情報が何かをまず知ることからである。災害に関する保護者の回答については、不安要素があるのではないか。「知らない」という思い。その思いが、生徒と保護者の評価の乖離にもつながっているのかもしれない。保護者連絡ツールなど様々な媒体があるはず、その強みを生かして「知らない」の不安を解消できるのではないか。(江添委員)
- ・「先生は良いところをほめてくれる」「いじめがないよう取り組んでくれる」という項目、生徒は9割がそう思うと回答している。生徒が先生との日頃のやり取りの中で実感できている結果。保護者は見ていないので実感しにくい。進路情報と同様、見せ方次第で数値としては変わるのではないか。また、良い項目を伸ばしていきながら、生徒が「思わない」と回答した部分にもしっかり目を向けて話し合っていく必要があると思う。(玉置委員)
- ・データ活用と自己肯定感の醸成。あとは、災害時のことについては「よく分からない」という声は実際に聞く。ケースバイケースだが、何か学校から発信があると良い。(角田委員)
- ・震度5弱以上は引き取りをお願いしている。(大石副会長)
- ・その際は学校から連絡が来るのか。(角田委員)
- ・発信すると思うが、災害の状況によっては必ずしもできるものではない。年度当初にお便りでも発信しているが、家庭での確認が十分でない可能性がある。今年度は災害に関する教員向けの研修を実施したがその際に学んだことなど、保護者にも還元できるよう発信していきたい。(大石副会長)
- ・保護者が「知らない」という点はある。知ろうとしている人は良いが、学校に任せきりな場合も。保護者も自分から情報をとりに行かないといけない。(五十嵐会長)
- ・家庭の親子の会話が減っている感じもする。(山本委員)

* 4について

- ・六陵祭文化部門青少協ブースでのアンケート結果について。
「SNS で危険を感じたことがあるか」の問に対して、次のような記述があった

	ので共有する。今後の指導上の参考にしてほしい。 →知らない人からのフォロー、DM、電話が来た、友人とトラブル、写真・動画の無断掲載、ネットストーカーに遭った、個人情報が出た、暴言・悪口・脅迫・金銭の要求、スクショされた、詐欺メールが届いた、学校が出た
--	---